諸声上げよ 意気高く もろごえあ 百十伝わる 篝火よ 蔦壁照らす 赤き火はったかべて

星降る北は 赤き空

が街を 切り裂けば

寮友に負けじと 先へ行け

君よ恵迪 北の星 たえ 轟 き 廻る酒 でえ 轟 き 廻る酒 汽き 笛き

炬燵布団で 蠢くは

その身醜 明ぁ 日ゥ 君が心よ清からん Iを夢見る < 若学者 あったとて

> 一振り天を 秋早去りぬ 靄こめ朝日 赤き輪り 割りたまえ 朝き

ぼらけ

君ぞ苦難の 望みなれ

Ŧi.

君忘るるなその心 二百の階段第一歩 新たら しき日々 笑え誠なれ 、朝は来た